

[dō:k]

DONC どんく

N°121 juill 2021 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0803

三重県津市柳山津興600-5 滝澤方
600-5, Yanagiyama-tsuoki Tsu-shi

TEL 090-4867-1476

FAX 059-227-8010

●●● 第20回 文芸講演会レポート ●●●

昨年はコロナの影響で延期になりましたが、今回は万全の対策でのぞみ、放送大学三重学習センターの協力を得て無事開催できました。

柏木ご夫妻が2019年1月パリの「日本文化センター」で講演されたことをお話しいただきました（図1）。

柏木隆雄先生は、19世紀のフランス挿絵画家グランヴィルとバルザックの共著『動物の私的、公的生活情景』を取り上げられ、挿絵と文章の間の協同作業（その相補性）について述べられました。近々パリのバルザック記念館で講演が予定されており、参加者は先んじて拝聴するという光栄に浴しました。

柏木加代子先生からは、御夫妻の共著「甦る江戸肉筆画 トロンコワ・コレクションを読み解く」を紹介いただきました（図2）。帯の文章が魅力的です。「パリの老舗レストラン・ヴェフルでのジャポニスム愛好家の集まりで、ゴンクール兄は〈中国語と日本語の深い知識に人生を捧げようと、日本に行こうとする〉青年にであう。彼の名はエマニュエル・トロンコワ」。江戸肉筆絵画のコレクションを出張調査した成果についてお話し

いただきましたが、これはNHKスペシャル『大江戸』でも紹介されています。

『動物の私的・公的生活情景』は、グランヴィルの挿絵と、バルザックを筆頭とする一流作家たちの文章が見事に融合して「クレヨンとペンの合体」と評されたそうです。このたびのご夫妻の協同講演もまた、「ペンとクレヨンの合体」のような印象でした。

（文責 矢野 隆嗣）



図1

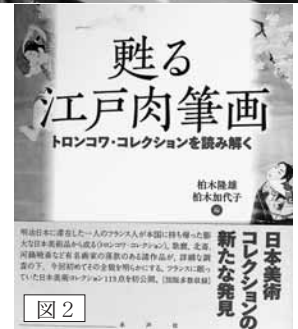


図2

こんな時だからこそ～“ちょっとフランス音楽はいかが？”



ピアニスト 伊藤 隆之

～フランス音楽とフランス文化、フランスでの実体験、 手軽に聴けるお勧めの曲などのウンチク～ その3

先の見えないコロナ禍が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私の勤める愛知県立芸大でも、コロナ自粛で大学が休みの時、生徒にフランスの文化、音楽を知ってもらおうとオンラインで課題に取り組んでもらっていました。大学で課題に出したウンチクを再編し、「どんく」でもご紹介させて頂く事となり、この度その第3回をお届け致します。

フランス語もフランス音楽も殆ど初めてという学生に焦点を当てたものなので、フランスに造詣の深い日仏協会の皆様は既にご存じの事も多いかと存じます。フランスを懐かしむように、楽しみながらお読み頂ければ幸いです。

1. 日本人とフランス人のお名前 (第1回)

今回は日本人が発音するフランス人のお名前と、フランス人に発音される外国人のお名前のお話を中心に数回にわたってお送り致します。

日本人にとってフランス語で厄介なのは **R** の発音です。L は日本語のラ行にやや近いのですが、**R** は“うがい”をする時にガラガラやるのにやや近い、喉を鳴らすような発音を、軽くかすれたようにするのはご存じの通りです。

例えば **Renoir** (ルノワール)。最初にも最後にも **R** が付きますね。

うがいのような喉の使い方は、決して乱暴な汚いガラガラではなく、空気が抜けたような優しい音なので、カタカナ表記は不可能ですが、ルノワールの場合はちょっとだけ喉を鳴らす用意をして冒頭の「ル」を始め、おしまいの「ル」も、うがい系でソフトに空気が抜けるようにする感じになると思います。私は乱暴なうがい音をガラガラと出しすぎて、フランス人から「やりすぎで汚いよ」と教えてもらった事もあります。

フランス人にとっては当たり前の発音ですが、**R** は日本人にとってはなかなか大変です。

例えば「ボンジュール」もカタカナだけ見ると、おしまいの「ル」を強くはっきり発音してしまいがちです。この“ル”もほとんど抜けるような感じでハッキリ聞こえない雰囲気になりますから、私は「ル」は文字を小さくして「ボンジュール」と書きたくてしまいます。

従って、印象派の作曲家、**Ravel** もホントはうがい音を優しく準備をして始める **R** ですので、カタカナ表記の「ラヴェル」とはかなり違った発音になります。

実は私も、ラヴェルと同じ印象派の作曲家 **Fauré** を「フォーレ」とカタカナ読みをしてフランス人に通じなかった経験があります。

ドビュッシーに **Rêverie** (夢) という曲がありますが、**R** が2回出て来ますね。これは大変！ピアノのレッスンで「**Rêverie**を弾きます」と言った所、恩師のムニエ先生から「え？何て言った？」と言われ、5分ぐらい発音のレッスンになった事もありました。

ここで、「ディ」と「ドウ」と「デュ」のお話をします。

戦前まで表記がなかったので、当時日本に入った外国の名詞・人名の発音は、「ディ」が「ジ」、「ドウ」が「ド」、「デュ」が「ジュ」で代用されていました。例えば日本の国土地理院発行の世界地図には、フランスの都市Dijonがいまだに「ジージョン」と表記されています。

ドビュッシーは強いて表記するならばドゥビュッシー、画家のドガはドゥガの方が本物にやや近いですね。戦前に日本に入ってきて有名になった人名は、日本人の視覚・聴覚になじんでしまっているので、今変更が出来ないのかもしれませんが。

フランス人は、外来語であってもフランス語風に発音してしまう事がとても多いのですが、その結果、外国人から見るととんでもない発音をしている事があります。

そこでクエスチョンです！

Q 次に挙げたものは“フランス語風に”カタカナ表記した作曲家の名前です。さて、これらの作曲家の正体は誰でしょう？

1. ベートーヴェン（最後のンはほとんど発音しないで飲み込む）
2. バック
3. モザール
4. シュベール
5. ヴェベール
6. ヴァグネール
7. スクリアピンヌ
8. ムントウソン

※カタカナで書くのはちょっと苦しいのですがご容赦下さい。
我々が発音している原型をとどめないような人もいますね。

「日本人とフランス人のお名前」に関してはまた次回、第2回をお楽しみに。

2. 印象派と呼ばれるのを嫌ったドビュッシー

次は、私が専門として研究している作曲家、ドビュッシーについてお話しします。

ドビュッシーはフランス近代印象派の代表者なのですが、実は、当の本人は“印象派の作曲家”と呼ばれるのを嫌っていた、というエピソードがあります。

ここで「印象派」について少し触れてみます。

1860年代半ば、絵画の世界では、画家の登竜門であるコンクールに落選した人たちが集まってグループ展を開いていました。

この、コンクールで認められなかった彼らの事を、世間は「印象派」と呼ぶようになりました。

「印象派」の絵画の作風は、それまでの保守的で写実的な画法を破り、物から輪郭を取り除き、対象物を光・色として捉える、斬新なものでした。

絵画の革命児として有名なモネも印象派の一人ですが、当初は全く受け入れてもらえなかったそうです。こうしたことから、「印象派」＝「あいまい、落ちこぼれ」というレッテルが貼られ、当時の人々の間では

決して良い意味では使われていなかったのです。

ドビュッシーが”印象派の作曲家”と呼ばれるのを嫌がったのは、このような理由からだと言われています。

ドビュッシーは、作曲家の登竜門であるコンクール「ローマ賞」で何度か落選した事があります。

その時、「お前の作品はまるで印象派の絵画のようにぼやけている」と酷評を受けた事も、彼が印象派の作曲家と呼ばれたくない理由だったと言われています。(しかし、最終的にはグランプリである「ローマ大賞」を取った、という事実をドビュッシーの名誉のために付け加えておきます。)

ドビュッシーは自身の事を“音楽の象徴主義者”と謳っていました。

象徴主義というのは絵画・詩の世界において、それまでの風景画のように物をただ描写するのではなく、目に見えない人間の思考や魂を表現しようとする動きです。

ドビュッシーはマラルメ、ヴェルレーヌのような象徴主義詩人、ギュスターヴ・モローのような象徴主義画家の影響を受けていました。そして音楽において、時には詩的に、時には皮肉を込めて、人生を表現しようとしていたり、又、生命をつかさどる自然の力を表そうとしていました。

こうした理由から彼は「俺は音楽の象徴主義者だ！」と主張していたのです。

しかしながら、その後の世では近代音楽を全部ひっくるめて「印象派の時代」としましたので、今ではドビュッシーは「印象派の代表者」として数えられているのです。



ドビュッシーの歌曲と オーケストラ作品

フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル等は、同時代の詩人（ヴェルレーヌなど）の詩に曲をつけ、おびただしい数の歌曲を書いています。

今回はまず、この3人の中で、最も象徴主義の詩人たちに触発されたドビュッシーの歌曲・オーケストラ曲に着目して聴いてみましょう。

*Claude Debussy (クロード・ドビュッシー)

Il pleure dans mon cœur 歌曲集「忘れられた小唄」より「巷に雨の降るとく」

...有名なヴェルレーヌの詩「巷に雨の降るとく、我が心にも涙降る」に曲をつけたもの。

Green 歌曲集「忘れられた小唄」より「グリーン」

こちらもヴェルレーヌの詩につけられた曲。

2曲とも「debussy plays il pleure dans mon cœur、debussy plays green」と検索すると、ドビュッシーが伴奏を自作自演している1904年の録音が聞けます。(検索する時は「œ」はoとeが合体したものですので「oe」と入力して下さい。)

音質は悪いですが、ドビュッシーがいかに繊細にピアノを弾く人であったかが解る貴重な録音です。

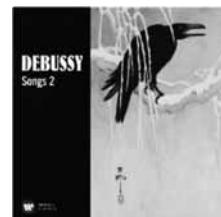
古き良き時代の雰囲気味わえると思います。

ピアノ曲の自作自演のCDも多く出ていますが、この歌曲の、伴奏まで収録されている盤は少ないのでご注意ください。

Apparition 「4つの青年時代の歌」より「出現」

「私はさまよった 目は古い石畳を見つめていた そのとき髪に日を浴び、この街角に この夕暮れの中、微笑んだあなたは現れたのだ」という象徴主義の詩人マラルメの詩から靈感を受け、作曲された歌曲。

Debussy apparitionで動画検索すると楽譜付きのサイトで聴く事が出来ます。CDはメスプレMespléなどフランスを代表する歌手によるものが多く出ています。



Prélude à l'après-midi d'un faune 「牧神の午後への前奏曲」

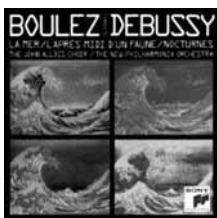
マラルメの詩「牧神（半獣神）の午後」に感銘を受け、オーケストラ曲にしたドビュッシーの代表作。夏の昼下がり、牧神が昼寝のまどろみの中で官能的な夢想に浸るという内容で、冒頭はパンの笛を表すフルートで始まります。世界的ダンサーのニジンスキーが斬新な衣装と振り付けでこの曲に合わせ踊り、センセーションを巻き起こしました。

まさにドビュッシーが世界的に名を馳せた出世作です。

名演は多々ありますが、ブーレーズBoulez指揮の演奏で聴いてみてください。

La Mer 交響詩「海」

オーケストラ作品としてドビュッシーの大作となった、3曲から成る海の情景。



ドビュッシーは象徴主義の一環として、生命をつかさどる水・海の力を常に意識していました。

2曲目の「波の戯れ」は彼が自宅に持っていた葛飾北斎の「神奈川沖浪裏」を意識したと言われています。

これもブーレーズ指揮の演奏が聴きやすいです。ネットではDebussy la mer Boulezで検索してみてください。

それでは皆さん、フランス音楽でどうぞ心豊かにお過ごし下さい！

Qの答え

1. ベートーヴェン (Beethoven)
2. バッハ (Bach)
3. モーツァルト (Mozart)
4. シューベルト (Schubert)
5. ウェーバー (Weber)
6. ワーグナー (Wagner)
7. スクリャービン (Scriabin, フランスではScriabineと表記)
8. メンデルスゾーン (Mendelsshon)

☆ 編集部よりお詫びと訂正 ☆

〈前号120号中に大きな誤植がありましたことをお詫びいたします。筆者伊藤様には大変ご迷惑をおかけしました。お手数ですが、下記のように訂正しますのでよろしくお願いいたします。 編集部〉

1. アクサンテギュ追加；p2上段 **bémol**、同中段 **le do, le ré, le mi**、p3上段 **mélodie**、p6上段 **André Campra**、同中段 **Maurice Durflé**
2. 削除
p2下段 カトリック千里ニュータウン教会
p6上段 &イングリッシュ・バロック・ソロイスト、モンテヴェルディ合唱団ガーディナー

会員だより

会員・針谷宏彌さん・菅原美枝子さんが参加の『津市平和のための音楽会』が下記のように催されます。



日時：8月1日(日) 午後1時30分開演
会場：津市リージョンプラザお城ホール

- ・菅原美枝子 ピアノソロ “ショパン=ノクターン”
- ・針谷宏彌 合唱伴奏 “四季で綴るメドレー”

* 時節柄入場者限定にて事前申込制500円
ご希望の方は、事務局 TEL 090-8863-9118
又は、Fax 059-227-0340 鈴木様まで

《一ロ×モ》パリ万博と渋沢

渋沢栄一が主人公のNHK日曜の大河ドラマ、1867年のパリ万博参加のため時の将軍、慶喜の弟昭武公の随員としてフランスを訪問した。ドラマ中、船酔いの中、はじめて口にしたバタートーストを味わった驚き、パリにての江戸の街とは全く異なった街並み、進んだ文明の数々、現代の我々からは想像しがたいことではなかったことでしょう。詳しいことは、「渋沢=パリ万博」にて調べて下さい。彼の晩年(84歳)、大正13年(1924)、当時の駐日フランス大使のポール=クロードと協力して日仏会館を発足させたことはよく知られていることです。(滝澤)

>> 会員の皆様へのお知らせ <<

昨年に続き今年も、総会・パリ祭パーティを中止することとなりました。つきましては今回、総会議案書・議案書賛否のための書面議決書を同封いたしましたので、お手数ではございますが返送をお願いいたします。新型コロナ感染予防が落ち着き平穏に戻りました際には本年末、もしくは来年早々にでも会員交流会の開催をと考えております。来年7月にはいつも通りの総会・パリ祭パーティが開催できることを祈っております。

年会費納入のお願い

2021年度の年会費；個人3000円、同封振込用紙にて、または直接ATMにて、下記口座あて納入のほどよろしく願いいたします。

百五銀行 本店営業部 普通預金 口座番号 153969

三重県立美術館にてミケル・バルセロ展開催のお知らせ

2021年8月14日(土)～10月24日(日)

スペイン現代美術界の巨匠ミケル・バルセロの日本初の大規模巡回展です。ワイン愛好家にはおなじみのフランスメドック五大シャトーCH、ムートンロートシルト2012のワインエチケットも描いています。ご覧ください。